

# えぐね

「えぐね」は、日本三大散居村の地、胆沢扇状地の屋敷の北西側に木を森のように植えて、冬の季節風から屋敷を守る防風林です。快適な住環境を形づくり、日本の原風景を代表する景観を生み出しています。本校が胆沢の地や人々にとってなくてはならない「えぐね」のような存在であり続けたいと願い、校報の名前にしています。

## 地区中総体での活躍

たくさんのがんばりがありました。勝敗や賞状などの目に見える結果と、数字には示せないけれど、記憶に残るプレーや活躍の両方を成果としてほしいと思います。そして、それぞれが次のステップをめざすことを願っています。

軟式野球 2位  
サッカー 3位  
バレーボール女子 2位  
ソフトテニス女子 団体戦1位、個人戦1位 八島陽菜・氏家華鈴組、2位菅原望夢・渡邊侑莉組  
ソフトテニス男子 団体戦1位、個人戦1位 本庄煌良・千田珀瑛組、2位千田奏羽・高橋陽組  
バドミントン女子 団体戦3位  
卓球男子 団体戦3位  
卓球女子 団体戦3位、個人戦3位 千田莉子  
剣道男子 個人戦5位 及川快生  
剣道女子 団体戦1位、個人戦1位 芳賀惟舞紀

## 表彰おめでとうございます

盛岡市内一周継走大会中学校 男子の部 6位 高橋陽  
さつきカップテニス中学校ソフトテニス大会 男子  
1位リーグ準優勝、女子1位リーグ3位  
陸前高田こいのぼり中学校ソフトテニス大会 女子  
団体1位 トーナメント3位  
県中文連栄光賞 読書感想画中央コンクール奨励賞  
村上佑夏  
県中文連栄光賞 JA共済全国小中学生交通安全ポ  
スターコンクール全国共済農業協同組合連合会  
会長賞佳作 川又董

## タイピング練習

1年生は学年取組として、タイピング練習の時間を設定しています。端末では、指を使つての画面操作が中心ですが、振り返りを文章で記録する際には、キーボード操作が必要になるためです。



## 人権の花

23日に人権擁護委員の方においでいただきました。お話を伺った後、環境福祉委員の生徒と一緒にプランターへの花苗植えの活動を行いました。

大切にしていきたいと思います。



## 避難訓練

27日に地震を想定した避難訓練を実施しました。最近、地震報道が続いています。大きな揺れの時は、安全確保を最優先にして、正しい判断と行動ができるようになってほしいと思います。

## 期末テストを終えて

29～30日に1学期期末テストを実施しました。得点やテストに関する数字に一喜一憂する気持ちもわかりますが、大切なことはそれだけに終わらせないことです。

出来た範囲は自信とし、間違いや分からなかった原因を確認し、覚えることは覚え、足りない分の補強を続けることが大切です。

## 読書を通じて得ること

石井あらた著『山奥ニートやっています』という本があります。和歌山県の山奥に15人くらいで集団生活をしているニートの話です。

この本に、人が変わる方法は3つしかないとありました。それは「時間配分を変える」「住む場所を変える」「付き合う人を変える」であるとありました。調べてみると、経営コンサルタントの大前研一さんの言葉で、人が変わるのに、最も無意味なのは決意を新たにすることだ、決意だけでは何も変わらない。変わるた

めには実際に行動することが必要だとありました。

読書を通じて得ることはたくさんありますが、気になったことを調べてみることで理解の幅が広がることもそうだなと思いました。

## 進路を考える その4

今回は、進路でどのようなことに困ったり悩んだりしているか、という質問です。

### 調査6 困ったり悩んだりしていること

#### <多い内容>

- |                           |        |
|---------------------------|--------|
| ・希望する学校に合格する <u>自信がない</u> | 63. 9% |
| ・ <u>勉強の仕方</u> がよくわからない   | 56. 6% |
| ・ <u>学習意欲</u> がわからない      | 53. 3% |

#### <少ない内容>

- |                   |       |
|-------------------|-------|
| ・相談に乗ってくれる人がいない   | 5. 0% |
| ・自分の能力や適性に合う学校がない | 7. 6% |
| ・進学したい学校が見つからない   | 9. 2% |

多い内容は、よく話題になる項目かと思えます。学習に関わる課題の解決は、やっていないことをひとつずつ消していくことから始めることです。時間をかける、回数を増やす、他の人のまねをする、誰かに訊くなどです。

また、経年調査の結果から、自信がないと答える中学生の割合が増加傾向にあるとのこと。私は、自信があると言える生徒は少なくて当然だと思います。大事なことは、失敗を恐れすぎず、自分の目標に向かうことです。苦手なことも、粘り強く取り組み、前進できる中学生に育ってほしいと願うものです。